

講演者・司会者のプロフィール

開会挨拶



寺澤 達也

(一財)日本エネルギー経済研究所 理事長

1984年通商産業省入省。

2011年9月-2012年内閣総理大臣（野田内閣）総理秘書官として東日本大震災の対応を補佐。経済産業政策局審議官、貿易経済協力局長、商務情報政策局長等を歴任。2019年経済産業審議官。在職中に行われたG20大阪サミットでは安倍晋三内閣のもと各国との調整において重要な役割を果たす。

2021年1月-6月内閣府本府参与として西村康稔経済財政政策担当大臣を補佐、新型コロナウイルス感染症対策や日本版グリーン・ニューディール等の成長戦略の策定に尽力。2021年2月日本エネルギー経済研究所参与、7月より現職。

東京理科大学 上席特任教授（国際交流）。

東京大学法学部卒、ハーバード大学ビジネススクール MBA 取得。

Session 1



小山 堅 司会 (モデレーター)

(一財)日本エネルギー経済研究所 専務理事 首席研究員

2001年 英国ダンディ大学博士号取得。エネルギー動向分析室長、研究理事などを歴任。東京大学公共政策大学院客員教授、政府審議会委員等を多数務める。専門は国際石油・エネルギー情勢の分析、アジア・太平洋地域のエネルギー市場・政策動向の分析、エネルギー安全保障問題で、関連の著書・論文多数。2020年6月より現職。



ファハド・アルアジュラン 氏 (Mr. Fahad Alajlan)

沙 アブドラ国王石油調査研究センター (KAPSARC) 所長

2021年8月より現職。現職以前は、政府・民間企業で上級職に就く。

2020年、サウジアラビアの国家戦略「循環型炭素経済プログラム(CCE)」の責任者に任命。2019年エネルギー省の「Hydrocarbon Sustainability Program」のディレクターとして石油とエネルギーの需要に重点を置いた長期エネルギーの動向と国際エネルギー市場への影響を調査・モニタリングに従事。また経済企画省にてエネルギー市場、政策、業界の動向、石油化学分野のアドバイザーを務めた。15年間在籍したサウジアラムコでは運用、企業戦略、投資計画、M&A等に係る上級職を務めるなど幅広い経験をもつ。また CCE を導入したサウジアラビアのエネルギーエコシステムをサポートすることから、サウジアラビア G20 では KAPSARC が新たに T20 (Think 20) のエンゲージメントグループとして加わった。ノースカロライナ州立大学で機械工学の学士、スタンフォード大学で MBA を取得。



ケン・メドロック 氏 (Dr. Kenneth Medlock)

米 ライス大学ベーカー研究所 シニアダイレクター
同大学のエネルギー経済修士プログラムの共同ダイレクター、IEEJ の特別客員研究員である。エネルギー・トランジション、電力・LNG 市場、ネイチャーベースの CO2 削減技術、水素、イノベーション等を専門とする。2019 年 アブドラビンハマドアルティーヤ財団 (ABHAIF) より "Lifetime Achievement Award for the Advancement of Education for Future Energy Leaders"、2011 年 The United States Association for Energy Economics (USAEE) のシニアフェロー賞、2013 年ベーカー研究所を代表して "USAEE Adelman-Frankel Award" 等数多くの賞を受賞している。学術誌へ数多く執筆、米連邦議会議事堂でも数多く証言するほか、OPEC 等 世界中で講演を多数行っている。2000 年 5 月にライス大学で経済学 博士号を取得。



ジョナサン・スターン 氏 (Prof. Jonathan Stern)

英 オックスフォード・エネルギー研究所 (OIES) ガスリサーチプログラム ディスティンクティブフェロー
2003 年にオックスフォードエネルギー研究所 (OIES) において天然ガスに関する調査研究プログラムを創設し、2016 年より現職。英国国立ダンディ大学エネルギー・石油・鉱物資源法・政策センターの名誉教授、IEEJ の特別客員研究員である。また 2011-2016 年に EU-ロシアガス諮問委員会の EU 側のスピーカーの代表を務めた。"The Pricing of Internationally Traded Gas (2012)"、"The Future of Gas in the Gulf: continuity and change (2019)" 等数多くの著書を出している。2022 年に OIES で刊行された最新のレポートは "Measurement, Reporting, and Verification of Methane Emissions from Natural Gas and LNG Trade: creating transparent and credible frameworks" と "Greenhouse Gas Emissions from LNG Trade: from carbon neutral to GHG-verified" 等がある。

Session 2



グレン・スウィートナム 氏 司会 (モデレーター)

アジア太平洋エネルギー研究センター 副所長
アジア太平洋経済協力 (APEC) の 21 ヶ国・地域から招聘した研究員グループを率いる。前職では、米国国家安全保障会議、米エネルギー省、米エネルギー情報局の上級職を歴任、また Reliant Energy 社、Koch Industries 社、ARCO 社、Fina Oil And Chemical Company 社等のエネルギー会社で計画・評価・リスクマネージメント等の上級職として携わった。スタンフォード大学 電気工学 学士号、カリフォルニア大学バークレー校 公共政策 修士号取得。現在 Energy Policy Research Foundation (EPRINC) のディスティンクティブフェロー。



ミッシェル・フォス 氏 (Ms. Michelle Foss)

米 ライス大学ベーカー研究所エネルギー・ミネラル・マテリアル部門フェロー
同研究所で非燃料鉱物のサプライチェーン構築のキャパシティビルディングを指導している。鉱山跡地復旧を含め、エネルギー分野だけでなく、環境調査、コンサルティング、投資銀行の上級職として 40 年以上の経験を有する。テキサス大学オースティン校とヒューストン大学で複数の役職を歴任。テキサス大学では 経済地質局の責任者であった。また北米ガス、パワーインテグレーション、国営石油会社から助成を受けたヒューストン大学 Shell の学際的学者であった。特記すべき経歴として、ローカル、国内外の政府機関、テキサス州会計監査官、米エネルギー情報局、米エネルギー省、世界銀行、日本貿易機構等とのプロジェクトが挙げられる。また大学を基盤とした北米の LNG 産業のコンソーシアムを主導した。米国際開発庁 及び エネルギー資源局の助成を受け、中央アジア、ウクライナ、西アフリカ等 20 の国・地域に対してエネルギー開発支援とプログラムを導入し、また 40 ヶ国以上からなるエネルギー分野の専門家に対し、石油・ガス・電力の人材育成プログラム構築に貢献した。テキサス大学マコームズ・スクール・オブ・ビジネスで Texas Executive Education プログラムのエグゼクティブ インストラクターを務め、Exxon Mobil Instructor of Excellence に選出された。前国際エネルギー経済学会 (IAEE) 会長、前米国エネルギー経済学会プレジデント、Harvest Gas Management LLC のパートナー。コロラド鉱山大学で修士号、ヒューストン大学で博士号を取得。



原田 武 氏

独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構 金属資源開発本部金属企画部 調査課長

1992年4月～：金属鉱業事業団入団
2016年7月～2018年9月：JOGMEC 資源探査部企画課長
2018年9月～2022年3月：JOGMEC ヨハネスブルク事務所所長
2022年4月～現在：JOGMEC 金属企画部調査課課長



牟田 徹 氏 (Mr. Toru Muta)

IEA エネルギー供給・投資見通し分析部門 上級エネルギー分析官
2020年より現職。東南アジア地域に焦点を当てたエネルギー見通し“Southeast Asia Energy Outlook”の主担当を務めるほか、鉱物資源に関する包括的な特別報告書“The Role of Critical Minerals in Clean Energy Transitions”、中・長期の世界のエネルギー情勢を分析するIEAの主要レポート“World Energy Outlook”の執筆に従事。前職は、経済産業省において水素、エネルギーシステム、CCUS、カーボン・クレジット、石油サプライチェーンなど、エネルギー・環境分野の政策を担当。

Session 3



山下 ゆかり 司会 (モデレーター)

(一財)日本エネルギー経済研究所 常務理事
担任する計量分析ユニットは我が国のエネルギーミックスの議論に資する各種分析で貢献。毎年発表するIEEJアウトルックはタイムリーな分析と気候変動の実践的アプローチで世界に知られる。国際エネルギー機関 (IEA)、APEC、ERIA、IPEEC など、エネルギー分野の国際協力で活躍し、国際会議等での講演・モデレーターの経験豊富。2020年国際エネルギー経済学会 会長、2021年 Executive Vice President を経て、2022年同学会 Past President。



ヌキ・ウタマ 氏 (Dr. Nuki Utama)

ASEAN Centre for Energy 事務局長
ASEAN 傘下の国際機関 及び ASEAN 加盟国エネルギー省からなる評議会への報告を担務。現職以前は、エネルギー関連会社のディレクター、および国際機関のコンサルタントとして勤務。また国連開発計画(UNDP)、国連環境計画(UNEP)でエネルギー環境関連のコンサルタント、また、ドイツを拠点とするエネルギー環境会社のコンサルタントとして務めた。アジア太平洋エネルギー研究センター (APEREC)、世界経済フォーラム(WEF)グローバル・フューチャー・カウンシルの諮問委員会のメンバーである。多くの大学で講師を務め、現在はインドネシアディポネゴロ大学で教壇に立つ。国際ジャーナルで執筆を行っており、多数出版されている。京都大学大学院 ポストドクとしてエネルギー科学研究科で東南アジアのエネルギーシナリオプランニングを研究し、タイモンクット王工科大学エネルギー環境大学院でライフサイクルエネルギー分析を研究し博士号を取得。



ジョー・エヴァンス 氏 (Ms. Jo Evans)

豪州気候変動・エネルギー・環境・水資源省 副長官

副長官として、国内の気候変動政策、低排出技術、気候政策の国際的関与等を担務する。またクリーン・エネルギー規制機関 (CER)、再生可能エネルギー庁 (ARENA)、グリーンエネルギー金融公社 (CEFC)、気候変動庁 (CCA) のポートフォリオ (予算) を担当、政策、プログラム、企業 roles 等の様々なポートフォリオも担当した。2000 年の入省以前はコンサルティング会社のマッキンゼー・アンド・カンパニーに勤務。プリンストン大学ウッドローウィルソンスクール 修士、メルボルン大学 環境科学 修士、オーストラリア国立大学で combined bachelor degree でアジア研究と経済学の名誉学士号を取得。気候変動に対する取り組みが評価され、2022 年 6 月にオーストラリア国家勲章 PSM (パブリックサーバントメダル) を受賞。



小林 出 氏

資源エネルギー庁国際資源エネルギー戦略統括調整官

1993 年 通商産業省入省

2014 年 経済産業省 経済産業政策局 立地環境整備課長

2015 年 東アジア・アセアン経済研究センター (ERIA) 総局長

2019 年 国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 理事

2021 年 資源エネルギー庁 国際資源エネルギー戦略統括調整官

1993 年 東京大学法学部卒、2002 年イェール大学 MBA 取得。

閉会挨拶



入江 一友

(一財)アジア太平洋エネルギー研究センター 代表理事・所長

1979 年通商産業省入省。1988 年米国ジョージタウン大学外交大学院修了。2002 年京都大学博士号取得。在オーストラリア大使館勤務を含めエネルギー・貿易分野の行政と、経済産業研究所等での政策企画・研究に主に携わる。2008 年経済産業研修所長を退官後、東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻教授を委嘱される。2012 年から日本エネルギー経済研究所の研究理事・アジア太平洋エネルギー研究センター研究部長、2018 年から常務理事・同センター所長を務め、同センターの独立に伴い 2020 年 4 月より現職。